

特発性後天性全身性無汗症の横断的発症因子、治療法、予後の追跡研究に関する研究

特発性後天性全身性無汗症における血清CEA値

研究分担者 中里 良彦 埼玉医科大学

研究要旨

特発性後天性全身性無汗症では汗腺CEA発現増加に起因した血清CEA高値を認める。血清CEA値は無汗症が改善すると低下し、無汗症の治療効果判定の指標となり得る

A. 研究目的

近年、特発性後天性全身性無汗症（AIGA）で血清carcinoembryonic antigen（CEA）値の高値、汗腺CEA発現の増加が報告された。本研究では血清CEA値測定がAIGAの治療効果、予後の判定に有効か否かを検討する。

B. 研究方法

AIGAの17例（36 ± 12歳：mean ± SD）を対象とした。このうち、13例は無汗期、8例は寛解期に血清CEA値を測定した。4例は無汗期から寛解期の変動を検討した。さらに、罹病期間、無汗の重症度（範囲）、コリン性蕁麻疹の有無と血清CEA値の関係を検討した。なお、全例で腫瘍はなく、発症前数年間は喫煙もしていなかった。

C. 研究結果

血清CEA値が5.0 ng/mL以上の高値を示した症例は無汗期13例中11例、寛解期8例中2例、無汗期CEA値は1.1~28.6 ng/ml（12 ± 9）、寛解期0.8~12.4（5 ± 3）で無汗期が有意に高値であった（ $p < 0.05$ ）。経過観察しえた4例では13 ± 8（全例5.0以上）から6 ± 4へ全例低下し2例が正常化した（図1）。血清CEA値と発症年齢には有意な相関関係はなかった（図1）。血清CEA値と発症年齢には有意な相関関係はなかった（図2）。血清CEA値（無汗期）は罹病期間には無関係であった（図3）。血清CEA値はコリン性蕁麻疹・疼痛発作の有無には無関係であった（図4）。血清CEA値は無汗の重症度には無関係であった（図5）。

D. 考察

AIGA多数例による血清CEA値の検討では、AIGAの無汗期では85%で血清CEA値が5.0 ng/ml以上の高値を認めた。治療後もしくは自然寛解後の寛解期（発汗期）に比較して有意に高値であった。経過を観察した4例の血清CEA値は全例、寛解期に低下しており、血清CEA値はAIGA無汗期に高値を示すこと、同一症例においては無汗の程度と連動して変動し、寛解すると低下することが示された。無汗期の血清CEA値は無汗の発症年齢、罹病期間との関係は認めなかった。また、コリン性蕁麻疹・疼痛発作の有無、重症度との関係もなかった。

本研究では血清CEA値の程度に影響を及ぼす因子は明らかではなかった。AIGAの血清CEA値は汗腺CEA発現に依存すると報告されている²⁾。この汗腺CEA発現には全身無汗であることに加えて、高度に発汗誘発刺激が持続するという条件が必要なのかもしれない。暑熱環境や運動を避けているAIGA症例では汗腺CEA発現増加は軽度で、血清CEA値も正常であった可能性がある。

E. 結論

AIGAでは汗腺CEA発現増加に起因した血清CEA高値を認める。血清CEA値は無汗症が改善すると低下し、無汗症の治療効果判定の指標となり得る。

F. 健康危険情報

特記事項なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Nakazato Y, Tamura N, Ikeda K, Yamamoto T, Tokura Y. A case of idiopathic pure sudomotor failure associated with prolonged high levels of serum carcinoembryonic antigen. Clin Auton Res 26 : 451-453, 2016
- 2) 中里良彦. 特発性後天性全身性無汗症 - 診療ガイドラインを含む - 発汗学 23 : 14-20, 2016
- 3) 中里良彦. 特発性後天性全身性無汗症の診断と治療. 新薬と臨床 65 : 188-192, 2016
- 4) 中里良彦. 後天性寒冷誘発性発汗多汗症. 神経内科 84 : 68-72, 2016

2. 学会発表

- 1) 中里良彦. 自律神経検査をやってみよう：この症候にあったらどうする？ 発汗障害・体温調節障害に出会ったら. 第57回日本神経学会総会 教育コース 8, 2016
- 2) 中里良彦, 池田 桂, 田村直俊, 荒木信夫, 山元敏正. 手掌多汗症と味覚性発汗を認めた incidental Lewy body diseaseの1例. 第69回日本自律神経学会総会, 2016

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

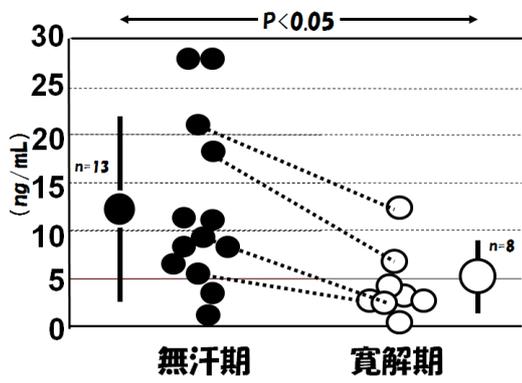


図 1 : AIGA の血清 CEA 値
点線は同一症例の変動を示す。

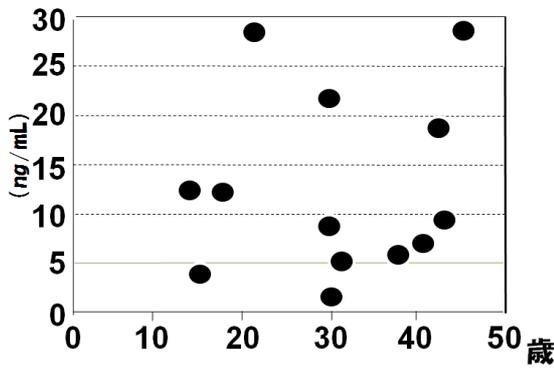


図 2 : 発症年齢と血清 CEA 値 (無汗期)

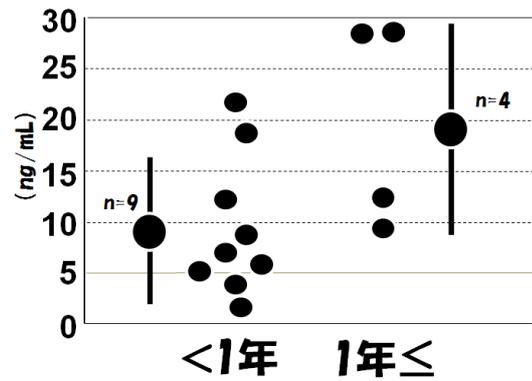


図 3 : 罹病期間 (無汗期) と血清 CEA 値

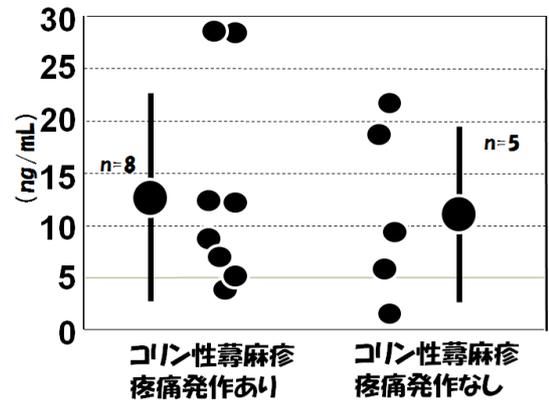


図 4 : コリン性蕁麻疹と血清 CEA 値 (無汗期)

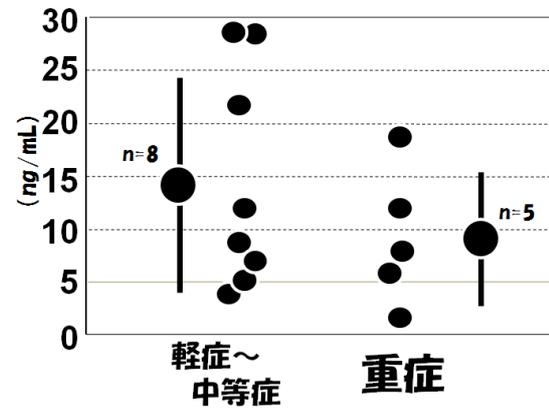


図 5 : 無汗の重症度と血清 CEA 値 (無汗期)